

気中オゾン濃度測定

オゾンは殺菌・脱臭力が高く、除菌後に残留しない等から最近では農薬の代わりや医療・食品など多くの分野で使用されています。しかし、オゾンは不安定な化合物であることから、発生量を測定することが困難な物質でもあります。

次のようなことでお困りではありませんか

- ✓殺菌剤としてオゾン発生装置を導入したが、発生したオゾン濃度が把握できない。
- ✓オゾンによる除菌や洗浄効果検証のためにオゾン濃度を把握したい。
- ✓慢性・急性中毒が起こらないように装置から発生するオゾン量を把握したい。

分析フローの概要



作業場でのオゾン濃度が許容濃度以下になっていますか

オゾンは中毒性があり、高濃度になると健康被害が起こります。装置等から発生するオゾン量が適切か環境測定の把握も必要です。

日本産業衛生学会（許容濃度）：0.1ppm
 アメリカ産業衛生専門家会議（TLV）
 重労働 0.05 ppm
 中労働 0.08 ppm
 軽労働 0.10 ppm
 重，中，軽労働負荷（2時間以内） 0.20 ppm



東レテクノでは上記濃度レベルの気中オゾン高感度測定が可能です！